

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 松原市

実践研究校名 松原市立松原第二中学校

【公開授業】公開日：平成25年11月22日

対象学年：2年生

(教材・教科書名) New Crown English Series2 (単元名) Lesson 7 Part 1 Good Presentation	(本時の指導の目標) ・さまざまな方法で比較級、最上級を練習する。 ・比較級、最上級をいつ、どのように使うかを理解する。 ・間違いを恐れず、言語活動に活発に参加する。
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ALTとの連携
- ・学年の教員によるビデオ作成（文法導入・活用練習）
- ・自分の考えを英語で表現する機会を作る

(授業後を終えた教員の感想)

- ・基本的なペア活動は身につけているので、より応用的にペア活動を行っていきたい。
- ・自分の考えや気持ちを英語で表現する場をもっと増やさなければならない。

【研究協議会】

(テーマ) (1) ALTとの効果的な連携のあり方の研究 (2) ICTを活用した授業展開の工夫 (3) 小中一貫したカリキュラムづくりの研究	(指導・助言者) 大阪教育大学 教授 吉田晴世 松原市教育委員会 指導主事
--	---

(研究協議会で出された意見)

- ・生徒が英語に対して物怖じせず、いきいきと活動しており、またリピート練習では皆がしっかり発声する姿、静かに説明をきく姿にも感心しました。これは英語とは関係ない場面でも、生徒指導がしっかりしているからこそであり、そこに加え英語の担当の先生方の楽しい授業作りのなせる技なのだと感じました。
- ・子どもが興味を持てる素材（教員のビデオ）などで、単語（ワード）をくり返し言わせて楽しみながら定着させることが大事だと思いました。
- ・リーディングの練習方法がとても参考になりました。ペアについてはまだまだ環境など整えるのが難しいですが、グループリーディングは今まで通りもっと活性化さ

せていきたいと思ひます。子どもを活発に動かす方法の工夫をしながら集団を変えていけたらと思ひます。

- ペアワーク、グループワーク等の活動を取り入れて、子どもたちのアウトプットの場面を増やしていきたいと思ひました。また、自己肯定感を高めることでまちがいを怖れずに発音・発言できるのではないかとと思ひました。
- 小学校の外国語活動から中学校の英語教育へと、すばらしい取組みを聞かせていただきありがとうございます。児童・生徒たちの意欲的な取組みを導いてこられた先生方のご苦勞が思われまひす。
- 小学校から英語にふれることで、小中の段差が小さくなり、子どもたちの負担も軽くなっていくのだろうなと思ひます。子どもたちがのるようには上手に授業をされていってとても勉強になりました。小学生からの積み上げの大切さを改めて感じました。

(まとめ)

1. 授業の目標・流れをALTともしっかりと打ち合わせをし、子どもたちが興味を持つ教材の準備や役割分担をきっちりと行っていくことが大切である。
2. ペア活動やグループ活動をしっかりと行うためには、日常の集団づくりと授業規律の徹底が大切である。授業の中でも子どもたちが言語活動を行う場面を意識的に設定するため、教員側からの仕掛けが必要であると感じた。
3. 「話す」「書く」「聞く」「読む」の4技能のバランスを大切にし、その技能の習得を意識した活動を組み込んでいくことが必要である。
4. 幼稚園にもALTが行っているし、2020年には小学校でも英語が教科となることも考え、さらに幼小中が連携し、カリキュラムづくりだけでなく、ペア活動やグループ活動等の授業の方法も連携して取り組むことが必要である。